

「紫式部といふものありけり」

2019年10月28日(月)

京都市立大枝中学校 武道場

午後1:20~2:10 (開場30分前)

申込み不要

原作：紫式部

原案：河合隼雄著『紫マンガラ』

脚本：岡村玲子

演出・音楽：尾上和彦

オペラ 月の影—源氏物語—より

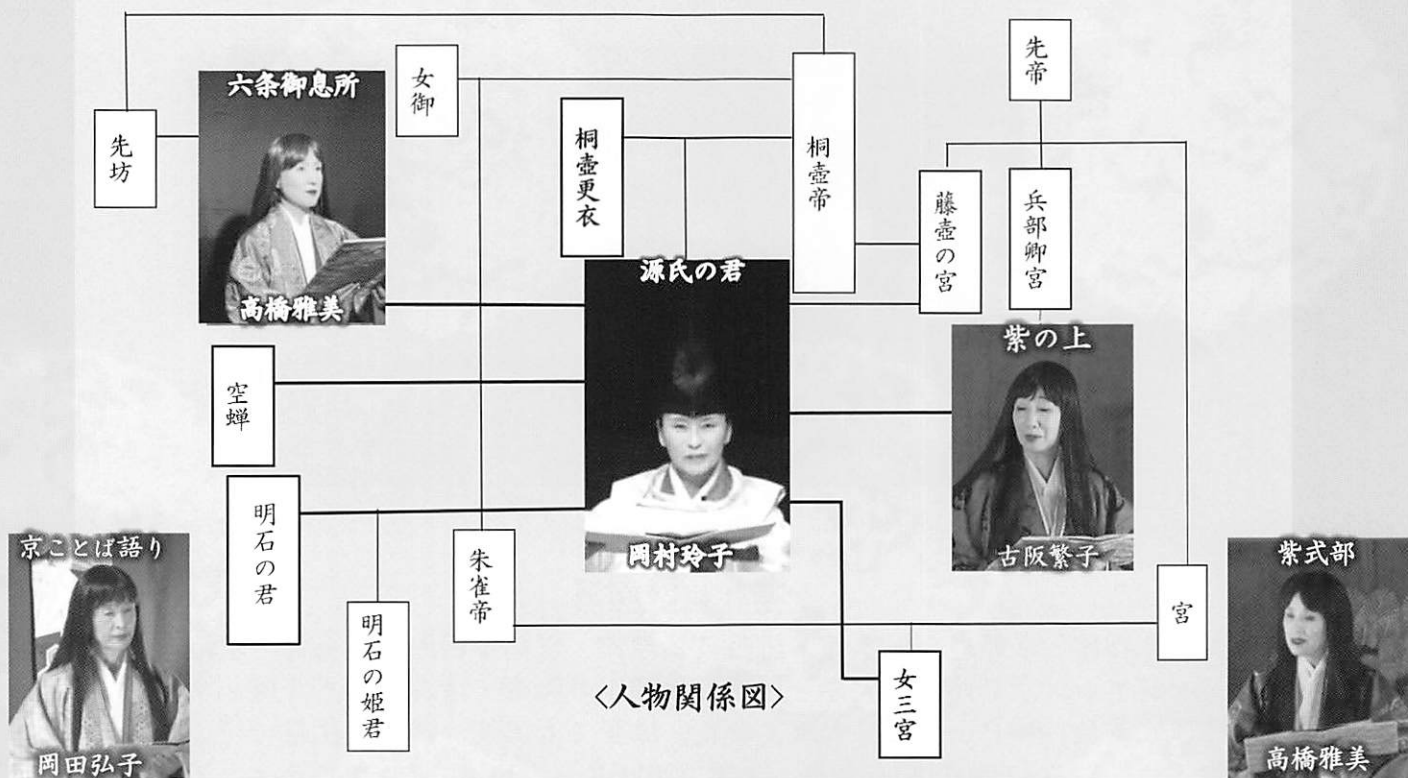
出演：朗読アンサンブル 京・Genji

岡田弘子 岡村玲子 高橋雅美 古阪繁子

黒衣：津田豊子

音楽操作：木田千賀子

所作指導：茂山あきら



源氏物語は光源氏の物語ではない。これは紫式部という女性の物語である。物語を読みすすんでいくうちに、物語に登場する女性たちが光源氏という主人公の姿を際立たせるためではなく、紫式部という女性の分身として見えてきたのである。やがて光源氏の姿は消え、そこには一人の確固とした人間として存在している紫式部の姿があった。

(河合隼雄『紫マンガラ』より)

紫式部は、なぜ『源氏物語』を書いたのでしょうか。

自らの内面を見つめるうちに、そこに様々な女性が存在することに気づいた紫式部は、内なる女性の分身である女君たちの物語を書くことを思い立ちます。彼女たちの心の声を引き出す役目を光源氏に与えて、紫式部の『源氏物語』は始まります。

表面的な幸せと心の奥にある苦悩とは、まるで葛藤しながらも、生きる道を求め続ける女君たち。当代一の貴婦人でありながら、夫である東宮をなくし身の置き所を失った六条御息所。高い身分の家に生まれながら幼くして母を失い、戻る場所のない紫の上。自らの身の振り方に苦しみ決断していく明石の君。

そんな女君の心を描きながら、紫式部は書くことで生きる意味を見出していこうとする自分を知るのです。

女君たちの切なくもいと美しい物語、紫式部の物語を平安の音色とともにお届けします。

朗読アンサンブル 京・Genji

—音楽と所作のある 源氏物語朗読劇—

朗読アンサンブル 京・Genji

2006 年より、思い切った解釈で描くオリジナル脚本による「源氏物語朗読劇」の公演を行ってきました。

源氏物語の底に流れる人のこころ、自然との融合、命あるものへのいとおしさを美しいことばで届けることに努め、朗読と所作、音楽と照明による斬新な表現方法で朗読の可能性を広げることを目指しています。

京都市市民憲章推進者市長表彰受賞。

京都市桂坂社会福祉協議会所属。にしきょう・ねっと登録。



写真：浜辺博

これまでの公演

京都文化博物館・京都府庁旧本館・関西日仏学館・京都市国際交流会館・宇治市源氏物語ミュージアム・京都外国語大学・同志社大学・妙心寺・清凉寺・平等院・東福寺・大原野神社他多数、神戸、福岡、大阪、奈良、滋賀でも公演。国民文化祭で『よみがえる源氏物語のこころ』（渉成園）を企画・主催（2011 年）。府民ホールアルティ「河合隼雄没後七年追悼公演」（2014 年）。上賀茂神社第四十二回式年遷宮にて奉納公演（2015 年）。「西京区制 40 周年記念式典」出演（2016 年）。石山寺秋月祭にて公演（2017 年）。京都市立芸術大学・日本伝統音楽研究センターと共演（2018 年）。

海外では、パリの国立大学 Ecole Normale Supérieure(2009 年)、フランス国立ギメ東洋美術館、アンジェカトリック大学(2013 年)、ロシア・サンクトペテルブルグで「京都府とレニングラード州友好提携 20 周年記念行事」（2014 年）、イギリス・ロンドン大学「全英日本学会」、フランス・カンヌ（2015 年）、中国・上海、武漢(2018 年)にて公演。

公演回数は 12 回の海外公演を含め、140 回を超える。

朗読アンサンブル 京・Genji

090-5960-3119

komorebi_genji@yahoo.co.jp